昭和の森自然観察会

昭和の森をぐるっと一回り

井上隆夫（佐倉市）

日　時：2025 年 5 月 11 日（日）10:00～12:00
参加者：28 名（大人 25 名、子ども 3 名）
担当指導員：伊藤・井上、　　特別講師：福島成樹氏

昨日の雨の影響も無く、爽やかな新緑の中での観察会であった。ベビーカーを押すご夫婦から、小学生、高校生、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代とあらゆる世代の方が参加された。

諸注意のあと、第 2 駐車場の「荻生道遺跡」について説明した。昭和の森公園内には、10 箇所の遺跡があり、旧石器時代から近世までの様々な時代を生きた人々の生活の跡が見つかっていることを説明した。

その後、ハクウンボクやヤマボウシの見ながら冒険広場を横切り、スギ林へと向かった。ここでは、特別講師の福島成樹氏に「山武杉」についてお話いただいた。房総半島に多く植えられた「山武杉」というスギの品種は、種子ではなく挿し木によって増やされたスギであり、材質が良く、大木は銘木と言われる品種である。また花粉をほとんど出さないことも特徴となっている。

しかし、山林が放棄されて間伐が行われなくなると林内の風通しが悪くなり、溝腐れ病になるスギが増えていった。スギ非赤枯性溝腐れ病は、菌類の一種であるチャアナタケモドキによってスギの幹に縦長の溝ができ、幹の中まで腐っていく病気である。この病気に罹った千葉県内の「山武杉」が 2019 年 9 月の台風 15 号の風によって幹の途中で折れてしまったとのことであった。

湿性植物園に下りる下り坂では、ナラ枯れによって枯れてしまったコナラの大木を見ながら慎重に階段を下っていった。花菖蒲園脇にはまだカラスノエンドウが緑色の鞘をつけていた、この鞘を使って笛にする遊びを紹介したが、ビービーと音を出すことができた参加者は数名であった。笛づくりの最中には、ハシブトガラスがカエルをくわえて、巣に戻る姿を見ることができた。

ビオトープ田んぼでは、オタマジャクシやタニシを観察しながら畦道を渡り、ノアザミの花にそっと触れながらスイレンの咲く下タ田池へ向かった。この池の水は、村田川へと流れて東京湾に注いでいることを説明した。

竹林を通り過ぎ、「四季のみち」を登って行った。ここは、前述の台風 15 号によるスギ林の被害が大きかった所であり、現在も市民による「1000 年の森づくり」という森の再生プロジェクトが進められている。

坂を登ると梅林に出た。小さな青い梅の実を見ながら、水分補給をして、花木園に向かう。一番背の高いユリノキが目印だ。ユリノキには、チューリップに似た花がたくさん咲いていた。英名では チューリップツリーと呼ばれている。葉の形も独特で「奴凧」に似ている。ユリノキの花は高所にあり、双眼鏡で見ている参加者もいたが、たまたま一つの花が落ちており、手に取って観察することができた。6 枚の黄緑色の花弁の基部にはオレンジ色の斑紋があり、3 枚の萼片は緑白色であった。たくさんの雄しべは 30 以上あるようだ。

花木園には、他にもラグビーボールの形をしたロウバイの実や、白い花をたくさん付けたトチノキが甘い香りを放っていた。

今回のゴールは展望台で、12 時に到着した。展望台からは九十九里平野が見渡せた。太平洋はかすんでいたため、はっきりと確認することはできなかった。

この場所では、昭和の森が分水嶺になっていることを確認した。下タ田池（しもんたいけ）側の湧水は村田川から東京湾に、展望台側の湧水は小中池から大網白里市や白子町に流れる南白亀川（なばきがわ）を通って太平洋に注いでいる。北側のあすみが丘東や土気駅方面の湧水は鹿島川となって印旛沼に流れる。そして利根川に繋がり太平洋へと流れていく。昭和の森に降った雨は、それぞれ３つの方面に分れていくのであった。

参加者の感想

〇虫や田んぼなどのいろいろな自然を知ることができて、良かった。

〇何度か参加しているが、常に新しい発見があるので、次回も参加したい。

〇初参加で、ここはとても身持ちが良い。ガイドの話もとても興味深かった。

〇さまざまな木の白い花を見ることができて良かった。

〇家の近くにこれほど大きな自然があることを知ることができ良かった。